

千葉大学 × 京葉銀行 ecoプロジェクト

7色の虹を千葉から未来へ

2025 年度実施報告書



2026 年 3 月 17 日

千葉大学環境 ISO 学生委員会

目次

0. はじめに	2
1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援	3
2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング	10
3. 学生発案の 7 つの環境貢献企画	11
4. 交流会	23
5. 広報活動と成果	24
6. 表彰	27
7. まとめと来年の展望	30

2025 年度プロジェクトメンバー 62 名

★:プロジェクトリーダー

名前	学年	学部	名前	学年	学部
古賀貫太★	3年	法政経学部	加藤弥音	1年	文学部
佐藤隼斗★	2年	法政経学部	三浦由加里	1年	文学部
有村奈々花	2年	法政経学部	佐藤 紅羽	1年	文学部
垣沼希空	2年	法政経学部	宮崎一颯	1年	文学部
高茂寿実	2年	法政経学部	京増咲良	1年	文学部
半澤愛佳	2年	法政経学部	小島鳳楽	1年	情報データサイエンス学部
三田真菜美	2年	法政経学部	渡部泰世	1年	国際教養学部
武藤愛華	2年	法政経学部	坂井千姫	1年	国際教養学部
生子夢	2年	法政経学部	浅田琴実	1年	工学部
久保亜沙美	2年	法政経学部	奥 洸太郎	1年	工学部
木内翔太	2年	法政経学部	豊里羽央	1年	教育学部
坂上明日香	2年	文学部	桜井梨央	1年	教育学部
吉原美空	2年	国際教養学部	北郷瑠奈	1年	教育学部
堀田陸生	2年	工学部	大矢 杏	1年	教育学部
大野慧	2年	教育学部	北川詩温	1年	教育学部
早川佳那	2年	理学部	古賀友葵	1年	教育学部
高須駿一	2年	理学部	古川花乃	1年	教育学部
大井優輝	1年	法政経学部	HE LEE MABEL	1年	園芸学部
矢島道理	1年	法政経学部	張 宸碩	1年	園芸学部
河辺朋樹	1年	法政経学部	八島朱里	1年	園芸学部
蜂谷昂平	1年	法政経学部	オノ俊輔	1年	園芸学部
阿部結音	1年	法政経学部	靳佳欣	1年	園芸学部
田中光	1年	法政経学部	元橋和奏	1年	園芸学部
LENGSAVATH LITTHIDA	1年	法政経学部	山口 結心	1年	園芸学部
柳沢優月	1年	法政経学部	梶浦千尋	1年	園芸学部
金村洋珠	1年	法政経学部	中川絢音	1年	園芸学部
阿部礼季	1年	法政経学部	大澤 友菜	1年	園芸学部
岩井飛鷹	1年	法政経学部	星ころ	1年	園芸学部
劉 未晞	1年	法政経学部	松永悠里	1年	理学部
松崎里沙	1年	法政経学部	小野田舜祐	1年	理学部
西川優	1年	法政経学部	中村光希	1年	理学部

0. はじめに

(1) プロジェクトの概要

本プロジェクトは今年で 9 年目となった。2017 年からの最初の 3 年間は「黎明期」として、学生の自由な発想を京葉銀行が受け止め、実現できる企画をどんどんやってみた時期であった。2020 年度はコロナ禍でしたが、オンラインや非対面に変更しながらなんとかプロジェクトを進めた「維持期」であった。

2021 年度からの 3 年間は、対面での活動が徐々に再開し、関わる学生数もどんどん増え、実施する企画を増やし、環境以外の SDGs 目標も対象とするなど、プロジェクトの幅をひろげていった「拡大期」であった。2024 年度からは企画数を絞り、1つ1つを充実させることを目的にプロジェクトを展開した。

2025 年度は、既存企画の確立とともに新企画も加えながら啓発する対象についても幅を広げた活動を実施した。

(2) 2025 年度の成果

① 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

京葉銀行様から 200 万円のご寄付をいただいた。

今年度はマレーシアへの留学プログラム(前年度まではタイ)を実施し、マレーシア国民大学に学生を派遣する渡航費の一部を支援することができたほか、タイ・チュラロンコン大学で開催された国際会議に学生を派遣した。その他の学生活動の経費を含め、合計 190 万円を使わせていただいた。

② 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング

昨年度から継続している日本サニティン株式会社 が認証を取得した。さらに、新たに恵藤計器株式会社へのコンサルティングを開始し、本年度は計 3 社の支援を行った。

③ 学生発案の 7 つの環境貢献企画

- ・今年度も 7 つの企画に絞り、内容を充実させることに注力した。
- ・62 名のプロジェクトメンバーが分担して取り組んだ。
- ・4 つの継続企画については「企画の質の向上」に取り組み、コンテンツの刷新に取り組んだ。
- ・3 つの新規企画では当初想定していた通りの進捗が難しい企画も多かった。
- ・今後に向けては、新規企画の更なる充実と、広報強化が課題である。

1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

<概要>

京葉銀行様のご寄付により、学生委員会の環境活動を支援する。主に旅費等を支援し、学生委員会のメンバーが国内外の環境系の会議や交流会等に参加する。

<目的>

国内外の環境系の会議や大会等で、千葉大学の学生主体の先進的な環境への取り組みを発信していくことによって、サステナブルキャンパスの推進に貢献する。また、プレゼンテーション経験や他大学との交流は学生にとって貴重な機会となるほか、他団体等との交流を経て活動のさらなるレベルアップに資する経験・知識を得る。

<寄付金額>

2025 年度 200 万円

※過年度実績 2017 年度 200 万円、2018 年度 230 万円、2019 年度 200 万円、2021 年度 230 万円、2022 年度 200 万円、2023 年度 200 万円、2024 年度 200 万円

マレーシアへの学生留学プログラム	70 万円
ASCN 年次大会 派遣(タイ・チュラロンコン大学)	45 万円
環境マネジメント全国学生大会(琉球大学)	35 万円
Chiba Winter Fes 2026 協賛	20 万円
CAS-Net JAPAN(サステナブルキャンパス推進協議会)年次大会(北海道大学)	15 万円
こどもエコまつりのワークショップ材料費	1 万円
その他経費(紙芝居印刷等)	4 万円
合計	190 万円

<実施報告>

(1)マレーシアへの学生派遣プログラム

名称： マレーシア国民大学 国際サマープログラム

概要： 千葉大学の協定校であるマレーシア国民大学に行くプログラムである。現地でマレーシアの環境問題や歴史を学び、今後どのようにしていけば良いかを同時期に来ていたイギリスの留学生や現地の学生とともに考えた。授業科目「Global+(3)」として行い、参加者には2単位が付与される。環境 ISO 学生委員会の総会(2・3年生が出席)と環境マネジメントシステム実習(1年生が参加)で、成果発表することで、行けなかったメンバーにも共有した。

目的： 座学やフィールドワークを通して自然遺産について理解を深めるとともに、持続可能性とエコツーリズムを一体化した保護活動について観察すること、マレーシアにおける様々な保護活動について探求すること。

派遣学生： 7 名 (齋藤優真 木内翔太 名取美歩 堀田陸生 近藤優美 根本小々菜 新井美珈那)
費用： 京葉銀行様からの寄付金で1人 10 万円支援。

スケジュール： 2025 年 8 月 3 日～8 月 16 日

月日	プログラム内容	
	午前	午後
8月2日(土)	深夜:羽田空港発	
8月3日(日)	朝:クアラルンプール着 UKM キャンパス内宿泊施設チェックイン	
8月4日(月)	プログラム概要説明	キャンパスツアー/レクリエーション活動
8月5日(火)	講義	フィールドトリップ
8月6日(水)	講義	フィールドトリップ
8月7日(木)	講義	講義
8月8日(金)	講義	講義
8月9日(土)	クアラルンプール カルチュラルトリップ	
8月10日(日)	休日	
8月11日(月)	UKM Living Laboratory (研究施設) 訪問 (現時点では、ランカウイ島の UKM Living Lab を訪問予定。)	
8月12日(火)		
8月13日(水)		
8月14日(木)	講義	講義
8月15日(金)	グループプレゼンテーション	送別会
8月16日(土)	UKM キャンパス内宿泊施設チェックアウト 朝:クアラルンプール発 午後:成田空港着	

実際の様子:



参加者の感想 (抜粋):

- ・環境について考える習慣があったので、スムーズにマレーシアの実態を学ぶことができました。この経験を存分に活かして、自分たちが環境のために何をすべきかを改めて考え直して実行したいと思います。(工学部 二年・堀田陸生)
- ・私はマレーシアについて全く知らなかったのですが、この留学を通して深く学ぶことができました。私たちが地球に大きな悪影響を与えていることがフィールドワークを通じて体感できたので、地球の将来を守るためにも長期的な視点でできることをしていきたいと思います。(法政経学部 三年・齋藤優真)
- ・この留学を通して、柔軟な思考を育成することができたと感じる。イギリスの留学生や現地の学生と交流をする中で、各国の環境に対する取り組みや姿勢の違いを感じ、それぞれの国の良いところを比べながらこうしたらもっと良い政策にすることができるのではないかと思考を深めることができた。この貴重な経験を将来に活かし、社会貢献できるように頑張っていきたいと思う。(法政経学部 三年・木内翔太)

(2) 国際会議への学生派遣

① Asian Sustainable Campus Network(ASCN) 2025 年次大会

タイで開催された国際会議に、3名の学生を派遣し、旅費等に寄付金約45万円を使用させていただいた。学生がプレゼンテーションや他大学の学生との交流を経験することができた。

会議・大会名	日程	派遣場所	学生
Asian Sustainable Campus Network (ASCN) 2025 年次大会	2月2日(月)	タイ・チュラロンコン大学	園芸学部1年 梶浦千尋 工学部1年 鈴木雄翔 園芸学部1年 斬佳欣

発表タイトル: “Building Sustainable Communities Through Student-Business Collaboration: Initiatives and Lessons from Chiba University”

発表内容: 千葉大学が目指す長期ビジョン「2040年までにRE100達成を目指す」や、20年以上にわたる学生主体の環境マネジメントシステムの歴史をベースに、学生委員会の活動や、京葉銀行をはじめとする様々な企業と行っているプロジェクトの事例を紹介。特に企業との連携においては、学生側だけでなく企業側のメリットもあることを伝え、具体的な数値を示しながらその社会的インパクトを裏付けました。また、活動を一過性で終わらせないための工夫についても触れ、最後はアジアの学生たちに向けて、「考えるだけでなく自ら行動して社会を変えよう」というメッセージを発信しました。



また、4か国12大学13団体の学生発表があり、審査の結果、「Silver-Level Award」を受賞しました。



参加者の感想: 今回の海外発表と交流を通じて、自分たちの活動が世界でも通用することを実感し、大きな自信につながりました。他国の学生たちの熱意や規模の大きな取り組みに刺激を受け、もっと頑張りたいという気持ちが強まりました。英語で発表し交流できたことは貴重な経験で、世界とつながる意義を感じました。銀賞受賞は支えてくれた方々のおかげだと感じており、感謝しています。今回の経験を出発点として、これからも活動を発展させ世界に向けて発信していきたいと思えます。

※「ASCN: Asian Sustainable Campus Network」は、サステナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)がアジアにおけるサステナブルキャンパスの推進を目的に、各国の大学ネットワークである、China Green University Network (CGUN:中国)、Korean Association for Green Campus Initiative (KAGCI:韓国)、Sustainable University Network of Thailand(SUN Thailand:タイ) とともに立ち上げたネットワーク。

(3) 国内会議への学生派遣

国内で開催された以下の大会に、計7名の学生と引率教員1名を派遣し、旅費等に寄付金約50万円を使用させていただいた。学生委員会の活動ノウハウを他大学に広めることができたとともに、学生がプレゼンテーションや他大学の学生との交流を経験することができた。

① 第19回 環境マネジメント全国学生大会

会議・大会名	日程	派遣場所	学生
第19回 環境マネジメント全国学生大会	7月6日(土)～ 7月7日(日)	琉球大学	園芸学部 3年 宮前良亮 工学部 2年 名取美歩 法政経学部 2年 松井惺太

※環境マネジメント全国学生大会は、環境マネジメントシステムの運用や環境活動に取り組む全国の大学生が参加する大会です。大学間の交流を促進し、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて活動することを目的としています。

内容:1日目 ソーエイドー35 コーヒー株式会社による基調講演、各団体による活動発表
グループディスカッション、エコキャンパスツアー
2日目 吉の浦公園ビーチでビーチクリーン活動

発表内容: 委員会の概要や活動理念、環境マネジメントシステム(EMS)の運用を担う学生組織としての役割について説明した。発表の中心では、地域と大学をつなぐ大規模な環境イベント「Chiba Winter Fes」の歴史と今年度の取り組みを紹介した。学生主体の環境啓発企画や企業・地域との連携、リサイクルワークショップやインクルーシブな展示など、多様な企画を通じた地域連携型の活動を示した。また、アガパンサス整備や堆肥化活動などの日常的な地域連携の取り組みについても報告した。質疑応答ではフリーマーケットの運営や大規模団体の組織運営に関心が集まった。



参加者の感想: 今回の全国大会に参加し、他大学にも多様な環境活動団体があることを知り、大きな刺激を受けました。各大学が地域や特色を活かした取り組みを行っており、自分たちの活動を見直す良い機会になりました。委員会の規模の大きさに関心を持たれる場面も多く、今後は他の企画についても理解を深めたいと感じました。学生同士の交流を通じて新しいつながりが生まれ、今後もオンライン交流会などを継続して関係を深めていきたいと考えています。また、環境活動を発展させるには、経済性や継続できる仕組みづくりも重要であると学びました。今回の大会は、自分たちの活動を客観的に振り返り、新しい視点や改善のヒントを得られる貴重な機会となりました。得られた学びを委員会全体で共有し、より効果的な活動につなげていきたいと思ひます。今回の経験を今後の活動へのモチベーションとして活かしていきたいです。

② CAS-Net JAPAN 2025 年次大会

会議・大会名	日程	派遣場所	学生
CAS-Net JAPAN 2025 年次大会	11月7日(土)～ 11月8日(日)	北海道大学	法政経学部 3年 古賀貫太 法政経学部 3年 蛭田愛海 工学部 1年 鈴木雄翔 園芸学部 1年 斬佳欣

※サステナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)は、国内の高等教育機関、行政機関、法人において、SDGsの達成とサステナブルキャンパス構築の取組を推進することを目的とした、国内の大学ネットワークです。

事例発表分科会(学生活動部門)における発表内容: 千葉大学のRE100達成に向けた学生推進活動

千葉大学の環境マネジメントシステム(ISO14001)の運用を学生が主体的に担う公式組織として、20年以上にわたり学内外で環境活動を展開してきた。2020年、大学は「2040年までに使用電力の100%を再生可能エネルギーで賄う(RE100)」目標を掲げた。これを受け、学生委員会は2025年度より「RE100学生推進プロジェクト」を立ち上げ、学生・教職員の認知向上を目的に活動を開始した。営農型太陽光発電の視察や企業との連携、ワークショップを通じて知見を深め、「広く・深く・見て触れて」を軸に広報や体験型企画を策定。大学の持続可能性への挑戦を学生の力で推進している。また、「サステナブルキャンパス賞」においては、ecoプロジェクトで実施している「Let's Study SDGs」の取り組みが学生活動部門の大賞を受賞した。



参加者の感想: CAS-net 年次大会への参加を通じて、環境保全やサステナビリティに関する理解を大きく深めることができました。他大学や企業、自治体の先進的な取り組みを知り、多様なアプローチや新しい視点から多くの刺激を受けました。千葉大学の学生主体の活動を発表し、多くの関心や質問をいただいたことで、自分たちの活動の強みや独自性を再認識することができました。また、他大学の学生や関係者との交流を通じて新たなネットワークも生まれ、今後の活動につながる貴重な財産となりました。今回得た学びや経験を大学に持ち帰り、今後の活動や発表の改善に活かしていきたいと思ひます。

(4) 学生の環境活動支援に関して

学生を国内外に派遣するだけでなく、学生委員会の環境活動を資金面から支援していただいている。

「Chiba Winter Fes 2026 ～発見しよう！一歩先のきみと地球～」の協賛

2026年2月15日(日)、環境ISO学生委員会主催の環境啓発イベント「Chiba Winter Fes 2026」を千葉大学西千葉キャンパスで開催した。約1,500名が来場した。

協賛：株式会社京葉銀行、株式会社オオクシ、株式会社ZOZO、千葉トヨペット株式会社

後援：千葉市

実施報告リリース：<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000001127.000015177.html>



活動報告書

2026年2月15日(日)、学内・地域社会で環境活動を行う、環境ISO学生委員会主催の環境啓発イベント「Chiba Winter Fes 2026～発見しよう！一歩先のきみと地球～」が、千葉大学西千葉キャンパスけやき会館で開催されました。天候にも恵まれ、1500人以上の来場者を迎えることができました。地域企業、団体の皆様にご出展くださいました様々なブース、ワークショップやISO学生委員会の企画が、ご来場いただいた方の「一歩先の何か」を見つけるそのきっかけとなることのできたならとてもうれしく思います。

主催：千葉大学環境ISO学生委員会
協賛：株式会社オオクシ、株式会社京葉銀行、株式会社ZOZO、千葉トヨペット株式会社
後援：千葉市



ふわふわエア遊具

株式会社Tealsよりレンタルしたふわふわエア遊具を設置しました。子どもたちは、滑り台と迷路の組み合わせで大盛り上がりで何周もする様子が見られました。初めての実施だったこともあり不安もありましたが、親御さんも安心していただける楽しい場を実現することができました。



エコマジックショー

エコパフォーマーのリオさんをお招きして午前と午後で一回ずつエコマジックショーを行いました。どちらの公演も多くの子供たちが着席。エコ、SDGSについて楽しみながら学べる素晴らしいショーを披露してくれました。



マスコット大集合！

千葉大学のマスコットである「ニシ・イノ・マツ」や、「チーバくん」が、イベントを盛り上げてくれました。撮影会やサークル団体とのコラボステージも行いました。



サークルの発表

モダンダンス部、千葉大学吹奏楽団、お笑いサークルP-RITTS、書道サークルほくじる九思会の4つのサークルが公演を行いました。バラエティ豊かなステージとなりました。



企業・団体によるSDGs関連展示・ワークショップ

各企業、団体の皆様にSDGsに関連する展示やワークショップをご出展いただきました。ただ頭で勉強するだけでなく、五感をフルに生かした、体感する学びは来場者の方からも好評の声を多く聞くことができました。



SDGsと衣服について学ぶワークショップ

株式会社ZOZOにご協力いただき生活に深く関係している服に関して「ファッションの裏側」「多様性」「3R」の三つの観点から楽しく学べるワークショップを実施しました。古着の切れ端を使って実際に服をデザインするワークショップがユニークで印象的でした。



ヘアアレンジ教室

株式会社オオクニにご協力いただきヘアアレンジ教室を実施しました。大人子供を問わないヘアアレンジは大人気で来場者の列が途絶えることがありませんでした。



バリアフリー企画

車椅子体験とバリアフリーに関するクイズの二つを実施。「車椅子を使うのが思ったより難しかった」などバリアフリーに意識を向けてもらうきっかけになりました。



学生によるこども向けワークショップ

古本市・古着市のスペースの一角で子供向けにワークショップを実施しました。古着を使ったバッグ制作を通じて、服はどのようにリユースすることができるのか子供たちが知ることのできるきっかけとなりました。



紙芝居読み聞かせ

フェアトレードに関して紙芝居の読み聞かせ、フィリピンからの製品の販売を実施しました。普段接点のない、フェアトレードに意識を向けてもらうことができました。



エコマグネット制作

緑町中学校の学生ボランティアの方と共同してマグネット作成のワークショップに取り組みました。着ぐるみをもって宣伝する中学生の姿が印象的でした。



環境啓発クイズ

RE100、ソーラーシェアリングなどあまり知られていない、未来のキーワードについてクイズを実施しました。



統括より

地域の皆様のお力添えなくしてChibaWinterFesの盛況はありませんでした。改めて統括一同よりお礼申し上げます。来年度も一層進化したCWFをお届けしていく所存ですのでぜひご期待ください！ありがとうございました！



〈出展の企業協力等〉（敬称略）
株式会社パソナグループ、株式会社ドコモCS、
学生服リユースShopさくらや、千葉都市モノレール株式会社、
NPO法人竹もりの里、若手犬プロジェクト、千葉市環境局（環境
保全部 脱炭素推進課、資源循環部 廃棄物対策課）
〈実行委員会〉 千葉大学環境ISO学生委員会
2025年度Chiba Winter Fes統括 吉田智哉、堀田陸生、新井美樹那
2025年度Chiba Winter Fes副統括 松井慎太
運営メンバーの学生委員 約60名
公式HP <https://env.chiba-univ.net/cw/f/>
X (旧Twitter) @chibawinterfes
Instagram @chibawinterfes
問合せ先 iso-student@chiba-u.jp

2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング

(1) エコアクション 21 について

エコアクション 21(以下、EA21)は環境省が定めた環境経営システムに関するガイドラインで、主に中小企業における環境への取り組みを第三者機関(EA21 中央事務局)が審査し、認証・登録する制度である。認証・登録するためには、PDCA サイクルに沿った環境経営システムを構築・運用・維持し、各種データ、取組結果等をまとめ、環境経営レポートとして毎年公表し、審査を受ける。



(2) 本企画の概要

NPO 法人の活動の一環である本企画は、京葉銀行様から EA21 の取得を検討している取引先企業を学生委員会に紹介していただく。学生委員会は、学内で EMS の運用を担っている経験を活かして、チームを組んで、EA21 の取得に向けたコンサルティングを行う。

県内の企業による EA21 の取得件数を増加させることは、地域の環境負荷削減や環境保全に貢献することにつながるほか、学生にとっては環境マネジメントシステムの理解を深めるとともに、企業経営者とコミュニケーションをとることができ貴重な社会経験となる。具体的には、全 5 回ほどのコンサルティングにより、環境マネジメントシステムの構築の支援と、EA21 認証取得に必要な資料や環境経営レポートの作成の支援をする。

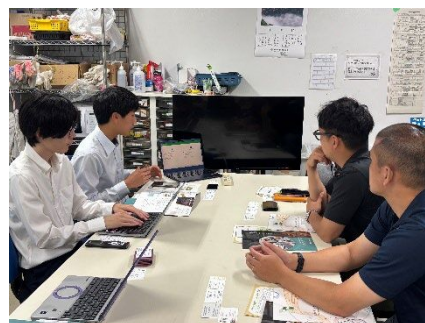
(3) 2025 年度の進捗状況

本年度は、前年度から継続している「日本サニティション株式会社」「株式会社エイシル」に加え、新たに「恵藤計器株式会社」のコンサルティングを開始し、計 3 社の支援を行った。「日本サニティション株式会社」が 12 月に認証登録完了した。

各社の進捗状況は以下の通りである。

- 日本サニティション株式会社
年度初めに環境経営レポート作成支援を行い、8 月に審査を終え、12 月に認証登録が完了した。
- 株式会社エイシル
連絡が滞る期間があったものの、11 月に進捗確認を行い、現在は環境経営レポート作成および内部監査の支援を行っている。
- 恵藤計器株式会社
7 月に顔合わせを行い、第 1 回から第 3 回までのコンサルティングを完了し、12 月より 3 か月のシステム運用期間(Do)へと移行した。

なお、連絡が取れなかった株式会社トーホープラス、株式会社グッドドライブについては京葉銀行様に継続意思の確認を行っていただき、支援を終了した。



(4) 来年度への展望

現在担当している企業様の認証取得に向けて引き続き活動していく。恵藤計器株式会社については運用期間終了後の審査に向けた支援を行い、株式会社エイシルについては環境経営レポートの完成と申請を目指す。また、本年度 1 月をもって新体制(2 年生)への引継ぎを完了しており、来年度は新担当者を中心として、新たな企業様に向けたコンサルティング実施も視野に入れて活動を展開したい。

3. 学生発案の 7 つの環境貢献企画

<概要>

当委員会のメンバーが、活動の中から得た経験や知見をもとに企画を立案し、幅広い層に対して環境負荷削減・意識向上、SDGs 達成に向けた貢献を呼びかける。企画の実施にあたっては、主に学生委員会が具体的な計画や準備、当日の主な運営を行い、京葉銀行様には関係先との交渉や運営の補助などをさせていただくという役割分担になっている。

<目的>

地域住民、京葉銀行関係者、千葉大生などを対象として、環境意識の向上を目的とした啓発活動を行うことにより、地域の環境負荷削減と SDGs 貢献、地域活性化を目指す。また、学生にとっては各企画の運営を行うこと自体が環境教育や実務教育の機会となる。

今年は eco プロジェクトも 9 年目を迎え、さらなる発展をはかるべく、既存企画の深掘りと新企画の充実を図った。

<企画一覧>

企画	該当 SDGs	ターゲット
(1) Let's Study SDGs		学童クラブ(子ども)
(2) こどもエコまつり		親子連れ(主に子ども)
(3) 古着市企画		市民(大人から子どもまで)
(4) ダイバーシティ企画		市民、学生、行員
(5) 紙芝居企画【新企画】		主に子ども
(6) バリアフリー企画【新企画】		市民
(7) 高齢者向け企画【新企画】		高齢者

(1)Let's Study SDGs

<今年度の目標>

実施数を絞って質の高い企画の実施に向けて創意工夫を行う。

<概要>

千葉市内の学童クラブにおける環境啓発活動を行う企画である。「楽しむだけで終わらないワークショップ」をモットーに2023年に立ち上げた。今年度は3年目に入り、講義とワークショップそれぞれの内容にブラッシュアップを図った。昨年度は15校で開催し、運営面の人手不足などの課題があったため、今年度は「5回程度」で無理のない運営体制を整える目標を立てた。体制を整えたうえで、実際は9回実施することができた(3月予定含む)。

<内容>

● 義

今年は、劇の芝居を参考に作成した。

登場人物は、Aさん、Bさん、博士、偽博士の4名で、Aさん、Bさん、博士が会話の中でSDGsについて解説したのち、偽博士が博士を乗っ取るという設定で冒頭を行い、それに付随した博士を救うというミッションを、ワークショップで課すという構成とした。

その後、最後の場面で博士が救われるというストーリーを設定した。

● ワークショップ

①SDGs すごろく

ワークショップの内容の充実と講義の内容の定着を図るという観点から、SDGsをテーマにしたすごろくを作成した。遊びながら、マスにとまると直前の講義に関連したクイズが与えられ、それらをクリアするとさいころで次のマスに進めるという形式をとることで講義の内容の定着を図った。すごろくは、千葉編と世界編の二つを作成した。

②ゴミ分別を学ぼう！釣りゲーム

子どもたちにごみの分別の重要性やごみの分別の方法について興味を持って欲しいという意図で、釣りゲームを実施した。ゴミ分別を学ぶ企画の実施に際しては、昨年のこどもエコまつりで実施していたコンテンツを参考にしながら準備を行った。

③古着を使ったバッグ作成（大宮小学校のみで実施）

バッグ作成に関しては着られなくなったTシャツを使用してバッグを作成する。制作には時間がかかることも考慮して、講義やワークショップに時間がかかる今年度はほとんどの学校で実施しなかった。

実施方式は去年に倣って、同様に実施する。

<実績> 9校

日程	場所	学生数	児童数
2/4	花見川小学校	5人	15人程度
2/6	長作小学校	5人	20人程度
2/17	柏井小学校	3人	7人
2/18	草野小学校	5人	8人



2/20	大森小学校	未定	未定
3/4	生浜西小学校	未定	未定
3/5	幕張南小学校	未定	未定
3/11	幸町小学校	未定	未定
3/19	大宮小学校	未定	未定



<結果>

良かった点

- ・ いずれの実施場所でも児童や保護者の方から好評をいただいた。
- ・ 全ての回において十分な学生スタッフの数を準備できるような形で計画を組めた。
- ・ 講義をしっかりと行い、ワークショップに接続させた点、劇の芝居形式になっていた点をはじめとして、多くの工夫をすることができた。

反省点

- ・ 3年目としての更なる改革や独創性を思ったよりも見出せず、新規性を見出せたのは、講義とすごろくにとどまってしまったこと。
- ・ ワークショップのコンテンツがすごろくとゴミ分別の二つのみであった関係で、子どもたちが若干退屈をしてしまう場面が見受けられた。企画内容のバリエーションを増やしていきたい。
- ・ 児童の人数が多いほど、運営が難しいということを実感した。企画のバリエーションを増やすとともに、様々なイレギュラーな事態を実施前に想定していく必要があると感じた。

<感想>

企画自体の実施内容は、外から見れば至ってシンプルなものではあったが、実施に至っては、多くの時間を費やした。企画の運営は、想像以上に大変で、様々な作業や調整が必要なのだと感じた。しかし、メンバーの中には最後まで協力してくれている人が多く、とても頼もしかった。人と協力する重要性を改めて感じた。

<今後の目標>

まず、今年度の課題として、企画内容のバリエーションの乏しさと学生人数の不足が挙げられる。児童たちが退屈することのないような内容の充実を実現させたい。学生人数の不足については実施場所の児童人数にやや不確定要素が存在するため、円滑な実施が可能となる学生人数を確保できるよう調整したい。来年度は、児童がより楽しむことができるように、改革や独創性を見出しながら児童たちにSDGsに対する興味・関心が深まるような企画を提供したいと考えている。

(2)こどもエコまつり

<今年度の目標>

より多くの地域の方に来てもらい、啓発を行う。

<概要>

子どもたちやその家族を対象に、ゲームや工作活動を通して楽しみながらSDGsについて理解を深めてもらうことを目的としており、今年度は2回実施した。

年度当初はイオン幕張など新しい場所での開催を含め、3回の実施を計画していたが、交渉がうまくいかず、2回となった。しかし、京葉銀行様のおかげでそごう千葉店と良い関係を築くことができ、集客数の大きなイベントの開催地として定着しつつある。

<実施状況>

① 5月の開催

今年度実施された千葉市芸術祭に向けて「かえっこバザール」と共同で開催することで、本委員会の活動の周知を図るとともに、多くの地域の方々にも参加してもらうことができた。

日時:2025年5月11日(日)12:00~16:30

場所:そごう千葉 センシティガーデン

来場者数:約 820 名

内容と参加者人数:

コンテンツ	啓発内容	参加人数
クリーンフィッシング	ごみ分別	187名
SDGs ボウリング	SDGs	194名
不用化粧品を使ったコスメペイント	リユース・リサイクル	109名
ペットボトルキャップを使ったマグネットづくり	リユース・リサイクル	109名
牛乳パックでぶんぶんゴマづくり	リユース・リサイクル	140名
トイレットペーパー芯でペン立てづくり	リユース・リサイクル	46名
古着 100円均一市	リユース	

千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト
こどもエコまつり
2025
5.10 土
12:00~16:30
雨天延期:5月11日(日)
参加費:無料 持ち物:作品を持ち帰る袋

こごう千葉店 センシティガーデン
アクセス:千葉駅から徒歩2分 京成千葉駅から徒歩1分

主催 千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト/千葉大学環境ES学生委員会
協力 株式会社千葉センシティ 株式会社そごう・西武 ちごう千葉店



② 3月の開催（実施予定）

日時:2026年3月28日(土)11:00~17:00

場所:そごう千葉 センシティガーデン

以下のコンテンツを実施予定。

- ・ クリーンフィッシング(ごみ分別ゲーム)
- ・ コスメペイント(リユース体験)
- ・ ペットボトルキャップでマグネットづくり(リユース工作)
- ・ トイレtpペーパー芯でペン立てづくり
- ・ 古着 de リメイク
- ・ 海洋プラスチック万華鏡
- ・ 古着市企画
- ・ 次世代分科会プロジェクトによるトイレtpペーパー配布
- ・ 不要スマホ回収ボックスの設置(ドコモ CS 千葉支店様と連携)



<感想>

当日参加してくれた委員会のメンバーは、イベントを楽しみながら子どもたちと接する姿が多く見られたのはとても嬉しかった。一方で、実際に開催をしている中でコンテンツの内容とそれらを実施する目的が明確でないものがあつたように感じた。ただ実施するだけでなく、原点に立ち返る必要があると思う。

<今後の目標>

- ・ 今年度は三度の開催を予定する中で、二度のみの開催で終わってしまったため、来年度はテンポよく開催できるように準備を進めていきたい。開催頻度をあげるために、開催場所の固定化を検討したい。
- ・ 新たなコンテンツを取り入れることで、来場者だけではなく運営メンバーも楽しめるようなものにした。工作も作って終わりではなく、工作の前後に関連する環境問題等のクイズを数問出題したり、材料などにまつわるストーリーを話したりと内容を充実させられるような工夫を施す。
- ・ 工作・ゲームで使用するものの衛生面を保ち、子どもたちも親御さんも安全に体験ができるような環境づくりも行えるようにしたいと思う。

(3)古着市企画

<今年度の目標>

より多くの人に衣服の大量消費について考えてもらう。

<概要>

古着を京葉銀行の行員や学生、教職員、地域の方々から集め、それを地域住民に販売する過程を通して、リユース意識を高めること、また得られた収益をSDGsに取り組んでいる団体に寄付をすることで、社会貢献を行うことが目的。

昨年度の活動から、「なぜリユースすべきか等の啓発を行い「服を長く使おう」という意識を広めるべき」という改善案があったため、今年度は啓発物を作成して、来場者に配布する取り組みを行うことができた。また、売上金の寄付だけでなく、古着の寄付も行うことができた。

<古着の回収>

2025年12月、京葉銀行内にて行員の方から、およそ10箱分もの古着を回収していただいた。

<古着の販売>

① 5月のこどもエコまつりにて開催

日時:2025年5月11日(日)

場所:そごう千葉店のセンシティガーデン

販売価格:1着100円

来場者数:99名

購入者数:11名

購入数:27着



② 古本市との共同開催

環境ISO学生委員会主催で学内において毎年開催している古本市と同時に古着市を実施した。

学生及び教職員を対象として、一斉配信メールで開催の告知を行った。

日時:2025年10月7日(火)・8日(水)12:00~12:50

販売価格:1着100円

場所:千葉大学西千葉キャンパス

来場者数:184名(1日目:85名、2日目:102名)

購入者数:8名(1日目:2名、2日目:6名)

購入数:15着(1日目:4着、2日目:11着)



③ 公民会で開催

教育学部附属中学校での古着回収企画とコラボして古着市を開催した。

日時:2025年10月12日(日)10:00~15:00

販売価格:0円(公民館使用の条件が非営利であるため)

場所:轟公民館

来場者数:22名

購入数:64着

広報:PRTIMESでプレスリリース。

「学内で回収した本や古着を、格安販売する学生企画のリユース促進イベントを実施」



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001054.000015177.html>

④ ZOZO の広場で開催(雨のため、中止)

ZOZO の広場で行われる「みどり台バル」に出店を予定していたが雨のため、中止となった。

日時:2025 年 12 月 21 日(日)

場所:ZOZO の広場

⑤ Chiba Winter Fes2026 にて開催

日時:2026 年 2 月 15 日(日)10:00~16:00

場所:千葉大学西千葉キャンパスけやき会館

販売価格:1 着 100 円

来場者数:253 名

購入者数:22 名

購入数着:59 着



⑤-1 広報物の作成

服が環境に与える影響について調べ、資料にまとめた。Chiba Winter Fes で来場者に配布した。

服が環境に与える影響

服の廃棄量や服を作ることによる環境負荷について

私たちが日々着ている服は、毎年膨大な量で作られています。そんな服を作るのに伴う環境負荷や、服が大量に廃棄されていることは、国際的に問題視されるようになってきています。では、実際にどのような環境負荷や廃棄量なのでしょうか。

国境を跨り2020年から毎年よりリーナス企業に委託して作成している「衣類のマテリアルフロー」によると、国内における衣類の供給量・廃棄量は以下のようになっています。

年度	2020	2022	2024
①国内新規供給量(万トン)	81.9	79.8	82.2
②廃棄量(万トン)	51.2	48.5	55.8
③廃棄割合(%)	62.5	60.8	67.9

このように、衣類は毎年供給量の半分以上が廃棄されていることがわかります。

また、日本とEUで一半分の衣類を作る過程で生じる環境負荷はそれ以上のようになっています。EUのデータは「国境を跨り2020」※「当時のEUの人口(4.6億人)」で算出されています。

地域	日本 (2020)(t)	EU諸国 (2020)(t)
CO ₂ 排出量 (換算・百万トン)	95	121
水消費量(億m ³)	83.8	40.32

それぞれの水消費量は、服一着の生産当たりで考えると2,368、2,700必要と推計されています(後者はコットンシャツ一着を作る際を想定)。

このほかにも、排水の処理や洗濯時に排出されるマイクロプラスチックによる水質汚染や、合成繊維の原料を用いることによる森林での生物多様性への影響など様々な環境への悪影響が危惧されています。

※参考文獻
①国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
②国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
③国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
④国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑤国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑥国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑦国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑧国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑨国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑩国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>

ファッションも持続可能に

①衣類廃棄物とは?

実は衣類は大量に廃棄されていることを知っていますか? 平均で、1人あたりが年間で購入する衣類の枚数は20枚、手放す枚数は14枚、着用されない枚数は23枚となっています。手放す枚数よりも購入枚数の方が多く、衣類のリサイクルが期待されていることが伺えます。衣類廃棄物には、生産工程で出る端棄物・メーカーが出す廃棄物・消費者が出す廃棄物という3つの種類があります。その中でも消費者が服を手放す手段は大きく分けて3つあります。一つ目は、リユースショップやフリマアプリ等を渡し古着として譲渡や売却することです。二つ目は資源として、または地域や店舗で回収してもらうことです。三つ目は可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄することです。

②衣類の生産工程

衣類はどのように生産されているのでしょうか? 製造工程では原材料を調達し縫製・染色し、縫製・縫製します。これらの工程は様々な工場での分業によって行われています。その後に工場から輸送され販売・利用された後排出・回収されます。回収された衣類はリペア・リユース・リサイクルされたり、焼却・埋め立てられます。

③メーカーが衣類を廃棄する

大量生産された衣類の多くは売れ残ってしまう、一部は次のシーズンに販売されたり卸・廃社に返送されたりしますが、廃棄処分されることがあります。メーカーは販売計画を基に、シーズンが経っても販売するといった取り組みが推奨されます。

④消費者が衣類を廃棄する

消費者が現在よりも1年長く着ることで、日本全体として約3万トンの廃棄量の削減に繋がります。そのために、服をシェアしたり古着を買い取りたりすることで経済的有効だと考えられます。

※参考文獻
①国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
②国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
③国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
④国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑤国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑥国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑦国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑧国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑨国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑩国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>

ファストファッションとは?

トレンドを取り入れた衣類品を、低価格で、短いサイクルで、世界的に大量生産・販売するファッションブランドやその業態のことです。2000年代中ごろから増え始めるようになった造語で、早くて安いという「ファストフード」になぞらえて誕生しました。

※参考文獻
①国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
②国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
③国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
④国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑤国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑥国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑦国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑧国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑨国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑩国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>

古着を途上国に寄付すること

途上国における古着は多くの人にとって重要であり、先途国から購入される古着は、他国競争の面で新品の服と対峙し、古着が定着するため、消費者はこれを進め傾向があります。地元産業はその競争力を失いつつあります。また、多くの途上国ではインフラが不十分であるため、大量の古着が適切に処理されない場合もあります。現地の状況を尊重することが大切だと考えます。

※参考文獻
①国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
②国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
③国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
④国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑤国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑥国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑦国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑧国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑨国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑩国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>

なぜファストファッションでは衣料の大量廃棄が起こるのか

私たちが目撃よく見ているファストファッションブランドの衣料は毎年大量に廃棄されています。ではなぜそのような衣料は大量に廃棄されるのでしょうか。そこには様々な理由があります。まずファストファッションはトレンドにとても左右されます。よってその時人気なものを大量に生産することになりトレンドがすぎると売れなくなり大量に処分することになります。さらにこのようなブランドの服は安価な素材などで作られているため廃棄されやすく長持ちが期待するよりも安い値した方が安く済むことが多くて結果として消費者は使い捨て感覚で衣料を買ってしまうこととなります。しかし例えばユニクロなどの一部の店舗で洋服の修繕を安く行うなどの努力がめられる企業もあります。

※参考文獻
①国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
②国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
③国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
④国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑤国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑥国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑦国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑧国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑨国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑩国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>

ファストファッションの問題点

ファストファッションは環境負荷も問題ですが、労働環境にも問題が起きています。ファストファッションは、インドやバングラデシュ、中国で多く生産されています。多くは最低賃金の給料しかもらっていません。長時間労働や過酷な労働環境、労働者の安全が確保されていない場合があります。2013年にはバングラデシュで違法に建設されていた縫製工場が崩壊する「ラナ・プラザ崩壊事故」が起きています。

※参考文獻
①国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
②国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
③国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
④国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑤国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑥国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑦国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑧国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑨国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>
⑩国境を跨り2020: <https://www.bordercrossing2020.com/>

服の大量廃棄をなくすためには

以上のような問題を解決していくために私たちができることを挙げてみました。

- ・今持っている服を長く着る
- ・お直しやリペアを行う
- ・人に譲る
- ・おさがりを着る
- ・古着を買う
- ・本当に必要かを考え買う
- ・長く着られる品質を選ぶ
- ・オーガニックコットンなど環境にやさしい素材で作られているかを見て買う
- ・どこでどのように作られたかなど生産ルートを確認する
- ・古着をリサイクルショップに出す

このようなことを実践しながらファッションを楽しむことが大切なのではないかと考えます。

作成 2025年11月
千葉大学環境SO学生委員会

⑤-2 古着を使用したワークショップ

Chiba Winter Fes では、売れそうにないと判断した服を活用するために、古着でバッグを作るワークショップを行った。

⑥ 3月の子どもエコまつりにて開催(予定)

日時:2026 年3月 28 日(土)

場所:そごう千葉店のセンシティガーデン

販売価格:1 着 100 円

<古着の寄付>

古着の在庫が大変多くなってきたため、2025年5月23日(金)に京葉銀行本店前で行われたマルシェに出店していたNPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会に寄付をした。

<結果> (2月現在)

実施回数: 5回

来場者数: 558人

購入数: 165着

売上: 10,100円(101着分)

寄付先: NPO法人プラン・インターナショナル

<企画の感想>

今年は他企画と協同で行う形での開催となりました。そのため、古着市を目当てに来場された方はもちろん、別の目的で訪れた方々にも古着市の活動を知ってもらえる機会となったと感じています。実際に開催中、「次はいつ開催するのか」と尋ねてくださる方もおり、古着市の需要はあると感じました。また、世代を問わず楽しんでいただける企画であると考えています。100円という価格設定についても安いという声を多くいただいたことから、値段として適切であったと考えています。

<今後の目標>

現在、販売数よりも以前からの回収数が上回っており、在庫が増加していることが課題です。今後はより販売数を増やすことを目標としたいと考えました。また、回収数は多いことから、リユースの促進に加え、購入する段階から環境を意識するという視点も広げていきたいと思えます。

また、来年度に向けては「朝日新聞 SDGs ACTION!」の方から古着のリメイクに関するイベントへの参加についてのお話もいただいているため、リメイクの活動もしていきたいと思えます。

(4) ダイバーシティ企画

<今年度の目標>

啓発の質の向上と市民向けのアウトプット

<概要>

環境という枠組みを超えて、SDGs の一環でダイバーシティ啓発を扱う企画。昨年度からは発達障害をテーマに、学生メンバーの学びとその内容を活かした京葉銀行行員・学生委員会・一般学生・教職員向け講習会の実施を目標としている。今年度は、講習会の実施に加えて、市民向け啓発ツールの作成を計画していたが、学生向けの講習会の開催のみの実施に終わった。

<内容・結果>

2025年10月28日、「環境マネジメントシステム実習ⅠB」の講義の時間をお借りして、約70名の学生向けの講演会を行った。

<結果>

学生委員会を対象とした講演会の実施となったが、発達障害の概要や障害を持っている方への対応について、認知度を高めることができた。

また、特に運営メンバーについては講演会の実施までの準備の過程で、発達障害に関する理解促進が図られ、ダイバーシティ社会の実現に資する人材育成につながった。

<感想>

リーダー2名がいずれも1年生であったため不慣れな点もあったが、先輩や教員の支援を受けながら、講演会を成功させることができた。一方で、業務分担に偏りが生じたことや、情報共有が十分でない場面があったことは次回に活かしていきたい。

<今後の目標>

チームで実施することを踏まえた体制づくりなどを行うとともに、今年度実現できなかった啓発ツールの作成を検討する。



(5)紙芝居企画【新企画】

<今年度の目標>

啓発の質の向上と市民向けのアウトプット

<概要>

過去に環境 ISO 学生委員会の企画で作られた紙芝居をリニューアルし、製本化し、小学校などに贈呈する企画。今年度は製本化して贈呈式を行い、読み聞かせの上演会までできればと計画していたが、製本化までの実施となった。リニューアルにあたっては、幼児や小学生が楽しく環境について学べるように、表現やイラストを工夫した。

<実施状況>

「竹のおはなし」と「海ちゃん物語」の2つの紙芝居について、内容修正し、それぞれ3部ずつ製本化することができた。贈呈式までを今年度中に行うことを目標としていたが、企画のメンバー内でタスク分担がうまくいかなかったことや、紙芝居の絵の修正が難航したことにより、製本化までにとどまってしまった。



<感想>

まず、活動をする中で自分たちも知らなかった環境問題について詳しく知ることができた。特に、竹害については、私たちの居住地域に竹林がないこともあって知らないことも多かった。知らなければ問題意識は芽生えない。そのため、子どもたちにもたくさんの知識を提供し、内容の全てを理解はできなかったとしても、まずは問題の存在を、紙芝居を通して知ってもらいたいと感じた。

<今後の目標>

今年度の活動では、メンバーがうまくタスクを分担できなかったことが問題点としてあげられる。各メンバーにタスクを割り当て、進捗状況を逐一共有することで、グループ全体で企画を進められるようにしていきたい。贈呈式では、読み聞かせを実施したいと考えているので、紙芝居の読み方についても、どのように読んだら楽しんでもらえるかを考えていきたい。

(6) バリアフリー企画【新企画】

<今年度の目標>

バリアフリーについて知ってもらう機会を増やす

<概要>

世の中で社会の福祉性が高まってきている中、多くの人にバリアフリーについて知ってもらう機会を増やしたいという思いがあり、この企画を発足した。

Chiba Winter Fes で企画出展し、そこで親子連れを中心に、バリアフリーに関するクイズを通して、街なかのハード面のバリアフリーについて知ってもらったうえで、車いす体験でバリアを感じている人の身になって考え、行動を起こすことのできる「心のバリアフリー」の意識を啓発することを目的とした。

<実施状況>

Chiba Winter Fes 2026 での出展

日時:2026年2月15日(日) 10:00~16:00

場所:千葉大学西千葉キャンパス内けやき会館

内容:「京葉銀行 PJ バリアフリー企画」として出展をし、以下の内容を実施した。

- ・ バリアフリーに関するクイズ(街なかにあるバリアフリーを知ってもらう)
- ・ 車いす体験(バリアを感じている人の身になる体験)
- ・ 感想ボード(試乗してみたの感想を来場者同士で共有する)

<結果>

結果:来場者数 251人

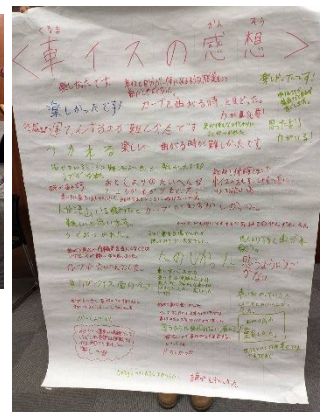
車いすを試乗した人を書いてもらった感想では、「楽しかった」、「車いすでの移動が大変だった」、「学びのある面白い企画だった」等の感想が寄せられた。

<企画の感想>

新企画であったが、運営メンバーと協力をして当初の目的であった「バリアフリーについて知ってもらう機会を増やす」ことを達成できたと思う。来場者の方にも想像以上に車いすを操作するのが大変だったから、今後車いすの方を見つけたら積極的に手助けをしていきたいといった前向きな感想をもらうことができ、この企画のおかげで社会貢献をわずかながらではあるが行うことができたのではないかと実感している。

<今後の目標>

来年度にこの企画を実施するかは未定であるが、継続する場合はより多くの人にバリアフリーについて学んでもらうことができるよう、企画実施の回数を増やすことや内容をより洗練したものにするなどといった工夫を取り入れて、より充実した企画ができるようにしたいと考えている。



(7) 高齢者向け企画【新企画】

<今年度の目標>

新しいターゲットに対する新企画の実施

<概要>

環境 ISO 学生委員会の取り組みをご高齢の方々にも広げるとともに、高齢者と学生が交流する機会を創出していく。また、ユニバーサルスポーツであるボッチャの体験を通して福祉教育の場を設けることも目的の一つである。

地域の高齢者施設を訪れ、ボッチャ体験会を3回程度実施することを目的としていたが、学生の中でも内容に関して様々な意見が出て初動が遅れ、1回実施を目指すところとなった。

<実施状況>

京葉銀行様に高齢者施設をご紹介いただいた。

日時:3月中を予定

場所:医療法人弘仁会介護老人保健施設ロータスケアセンター

人数:8名

内容:

1. ユニバーサルスポーツの紹介

学生よりユニバーサルスポーツについてスライドを用いて説明。ボッチャのルールも実演と共に紹介。

2. ボッチャ体験会

学生と施設の入居者が一緒にチームに分かれてボッチャを体験。

<感想・今後の目標>

高齢者を対象とした企画ということで、できるだけ環境 ISO 学生委員会ならではのコンテンツを考えたいと、企画立案段階で迷走しましたが、まずは、高齢者向けの企画の一步として、当初案通りのボッチャ体験という形で企画実施することとなった。施設をご紹介いただいた京葉銀行様に感謝しています。今年度の実施を実現するとともに、企画実施に向けて右往左往した経緯もしっかりと引き継ぎ、来年度にブラッシュアップしていきたい。

4. 交流会

<今年度の目標>

より多くの学生の参加

<概要>

本企画は、平素からお世話になっている京葉銀行様と eco プロジェクト所属の学生委員が交流を図り、所属意識をしっかりと持ってもらうとともに、委員会外の千葉大学生にも参加を募ることで eco プロジェクトを広く認知してもらうことを目的としている。

今年度は学生委員会以外の一般学生の参加も募ることで、より多くの学生の参加を目指し、10 名程度の一般学生の参加を実現した。

<実施状況>

日時:8月27日(水)9:00~12:00

場所:京葉銀行千葉みなと本部

人数:28人 ※オンライン含む

内容:

1. 金融講座

プログラム

9:00~9:20 京葉銀行について(京葉銀行地域共創部)

9:20~11:20 金融講座「投資の本質を知り、実践に活かそう」

講師 レオス・キャピタルワークス株式会社

①投資の本質を知ろう

②ワークショップ1 「コンビニのお菓子(グミ)の棚を観察しましょう」

③ワークショップ2 「3社を調べて推しの1社を決めましょう」

11:20~11:40 質疑応答

2. 京葉銀行千葉みなと本部行内見学

京葉銀行本部の行内で環境に配慮している箇所などを見学した。



<結果・感想>

本年度は、環境 ISO 学生委員会の委員だけでなく、委員会外の千葉大生にも参加してもらい、より広く金融教育を受ける機会を提供することができました。金融講座では投資の基礎基本を学び、ワークショップを通して実際に日々目にするものから投資へのヒントを得ることができると気づきました。このワークショップ後からは、普段買い物をする際にも、今の流行は何だろうと商品に注目する習慣が身についています。また、プロジェクトメンバーが集まり京葉銀行の行内を見学するという体験は、委員にとって eco プロジェクトのメンバーであるという所属意識を養う貴重な機会になりました。来年度以降、より広く本プロジェクトや京葉銀行様の取り組みを認知してもらうべく、多くの大学生に対してこの企画を広報しながら参加してもらえるような企画にしていきたいと考えています。

5. 広報活動と成果

(1) 千葉県 SDGs セミナーへの登壇

県内で活動する企業・団体等を対象として、SDGs に関する優良事例の拡大や、連携による新たな取組の創出を目的として開催されたセミナーに、優良事例の紹介として登壇した。

名称：令和7年度 SDGs セミナー
 日時：2026年1月20日(火) 14:00~16:00
 主催：千葉県
 後援：ちば SDGs 推進ネットワーク
 内容：

① 基調講演

「SDGs の基礎知識～企業経営と SDGs～」

講師：一般社団法人日本 SDGs 協会専務理事 吉條嘉家氏

② 優良事例

・「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」

講師：千葉大学環境 ISO 学生委員会 2025 年度委員長古賀貫太
 京葉銀行地域共創部地域共創グループ次長大森達矢

・「SDGs に向けた取組における成果と課題(早生桐事業等)」

講師：株式会社ナリコー執行役員城間陸氏

・「私にとっての SDGs～亀山温泉ホテルにおける SDGs の取組～」

講師：亀山温泉リゾート代表豊島大輝氏

・「木更津市のオーガニックなまちづくり」

講師：木更津市企画部オーガニックシティ推進課係長勝畑将太氏

令和7年度 SDGs セミナー

※ 参加費は無料！ 申込は先着順となります！

日時 令和8年1月20日(火) 午後2時～午後4時

基調講演

- 「SDGsの基礎知識～企業経営とSDGs～」
 講師：一般社団法人日本SDGs協会 専務理事 吉條嘉家 氏

優良事例

- 「SDGsに向けた取組における成果と課題(早生桐事業等)」
 講師：株式会社ナリコー執行役員 城間陸 氏
- 「私にとってのSDGs～亀山温泉ホテルにおけるSDGsの取組～」
 講師：亀山温泉リゾート代表 豊島大輝 氏
- 「木更津市のオーガニックなまちづくり」
 講師：木更津市企画部オーガニックシティ推進課 係長 勝畑 将太 氏
- 「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」
 講師：千葉大学環境ISO学生委員会 2025年度委員長 古賀 貫太 氏
 京葉銀行地域共創部地域共創グループ次長 大森 達矢 氏

※ 立派な事例については、会場内で上記4講義それぞれ別の事例説明を行います。参加者は4つの事例のうち2つを聞くことができます(20分×2回のローテーション)なので、自由に希望事例を選んでください。なお、申込状況により、ご希望の事例が聞けなくなる場合がございます。ご了承ください。

※ 本セミナーには日本語訳、アスカッション等の視聴もご用意しておりますので、講師との交流や参加者の士気向上が期待できます。

場所 千葉銀行本店 3階 大ホール
 〒260-0801 千葉県千葉市中央区千原1-2
 (丸の内線千原駅南口徒歩5分、京葉線千原駅南口徒歩5分)

申込 要事前申込 (1/13(火)午後5時まで・定員60名)
 ちば電子申込サービスから、お申込みをお願いします。
 ※ 受付の企業、団体、教育機関等に代位するSDGsに関する研修意欲のある心中断の申込みは不可です。

主催：千葉県 千葉県 総合企画部 政策企画課 企画課監査室
 後援：ちばSDGs推進ネットワーク お問合せ先 電話：043-226-2440
 E-mail: k11ty@kznet.pref.chiba.lg.jp

千葉県による SDGs セミナーについての告知

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/press/2025/r7sdgs-seminar.html>



発表する様子

**千葉大学×京葉銀行
ECO プロジェクト**

これまでの活動紹介と
学びやメリット
2026年1月20日

千葉大学環境ISO学生委員会 2025年度委員長：古賀貫太
 株式会社京葉銀行 地域共創部：大森達矢

【企業と連携した子ども・地域向け啓発活動】

企画の概要

- ターゲットはこどもと家族向け
- 年に2~3回実施
- 京葉銀行に実施場所を紹介してもらう
- 学生が環境啓発関連の企画を実施

企業との連携

- 今年度はごとう千葉で実施
- 昨年3月は700名程度が来場した
- 千葉国海芸術祭との連携企画も実施
- 広報などにおいても連携して実施

【企業向けエココンサル事業】

企画の概要

- エコアクション21の取得コンサルティングの実施
- 現在(2025年度)は3社を担当中

企業との連携

- 実際に企業のオフィスを訪問してコンサルティングを行うなど、環境マネジメントシステムの実践的な理解を深める貴重な機会
- 京葉銀行に企業を紹介していただく

【成果・メディア露出】

CAS-Net JAPAN 年次大会2021
 CAS-Net JAPAN 年次大会2025
 サステイナブルキャンパス賞 学生活動部門

International Green Gown Awards 2019 Student Engagement部門奨励賞

発表資料 一部抜粋

参加企業・団体： 30 団体

事例紹介は 2 回行い、合計27企業・団体、それぞれ以下の方々が参加してください。

名称	名称
株式会社千葉ステーションビル	岩瀬薬品株式会社
株式会社オリエントコーポレーション	ダイハツ千葉販売株式会社
さくらや ちば八千代店	学校法人君津学園 市原中央高校
アースドクターふなばし	認定NPO法人色彩生涯教育協会
Empathy	建行株式会社
NPO法人しろい環境塾	テルウェル東日本株式会社
八千代市教育委員会	株式会社三信精機工業
環境カウンセラー千葉県協議会	千葉市立畑小学校アフタースクール
千葉大学	ウォータースタンド株式会社 千葉営業所
株式会社千葉興業銀行	株式会社ユカ
日本政策金融公庫千葉支店	株式会社BPLab
損害保険ジャパン(株)	株式会社ナリコー
株式会社伊藤園	株式会社ナリコー
株式会社伊藤園・千葉支店	NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会
	音空株式会社
	大和証券

参加者からの感想：

・千葉大の学生たちが、京葉銀行とコラボしている事例は、実際に小学校で子どもたちを教える身として、希望の灯りとなった。

是非、地域コミュニティと子どもたちとの共同イベントを実現して欲しいと思った。

・千葉大生と京葉銀行によるエコプロジェクトにおいて、企業のコンサルまで行なっていることに驚くとともに、将来的には SDGs 活動にとどまらず、収益性があるのではと感じた。

・学生を主体とした SDGs 活動が、2012 年から続いていることは、素晴らしいです。

・千葉大学の学生さんが、京葉銀行とコラボして様々な取組に挑戦されていました。今後、小中学校での出前授業等も目標にしているとのことで、大変楽しみです。

・千葉大学と京葉銀行の取組み。当社も船橋市と包括連携協定を結んでおり、活動の参考にしたい。

・京葉銀行様と千葉大学様の取組みは非常に素晴らしく印象に残りました。

・千葉大生の説明がとても聞きやすかったです。

・京葉銀行様と千葉大学様の取組みは非常に素晴らしく印象に残りました。

このような事例発表などの機会に関係を持った方々とも連携しながら、今後の本プロジェクトの活動の幅も広げていきたいと思う。

(2) プレスリリース

<京葉銀行様からリリース>

8月28日	「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」交流会において投資家体験ワークショップを初開催！
2月6日	令和7年度千葉県男女共同参画・多様性社会推進事業所表彰で「千葉県知事賞」を受賞しました

<千葉大学からのリリース>

10月23日	学内で回収した本や古着を、格安販売する学生企画のリユース促進イベントを実施
11月14日	千葉大学環境 ISO 学生委員会と工学・情報学系講義棟の取り組み事例が「サステナブルキャンパス賞 2025」でダブル受賞
1月15日	大道芸や子ども向け企画でSDGsを体験！千葉大生が企画する「Chiba Winter Res 2026」を2月15日に開催
2月12日	千葉大学環境 ISO 学生委員会が第10回 ASCN 年次大会で「シルバー賞」を受賞

(3) メディア露出・掲載

2月6日 ニッキン

「京葉銀、千葉県から表彰 ダイバーシティ推進などで」
<https://www.nikkionline.com/article/364725>



2月15日 千葉テレビ

「千葉大でエコ啓発イベント 子どもから大人まで約1500人が地球環境を考える」
 (Web 配信あり)
<https://www.chiba-tv.com/plus/detail/amp/2026021298574>
<https://youtu.be/37YBpbxUWRg?si=3VA9R08le3pGNGAK>

2月16日 日刊工業新聞

「多様性推進事業所を表彰 千葉県」



6. 表彰

(1) 「Let's Study SDGs」の取り組みでサステナブルキャンパス賞受賞

環境ISO学生委員会は、2025年11月8日に開催されたサステナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)2025年次大会において、「第11回サステナブルキャンパス賞」の学生活動部門の大賞と特別賞を受賞した。

受賞事例:「楽しむだけで終わらないワークショップ ～学童クラブに対する新たな取り組み～」

応募内容:

地域とのつながりが強い学童クラブを対象に、SDGsをテーマとした紙芝居講義や古着バッグ制作、ペットボトル工作などの体験型ワークショップを実施し、子どもたちが楽しみながらリユースや資源循環の重要性を学ぶ環境教育を展開した。2024年度は14校約500名、2025年度は15校約310名が参加し、学びが家庭や地域へと広がる成果を生み出している。学生にとっても、企画立案や運営、地域連携を経験することで社会人基礎力や教育力を養う貴重な機会となった。



審査講評:

小学校での子どもたちへの環境教育は多くの大学で行っているものの、地域とのつながりが深い学童クラブでの環境教育は、大変貴重な事例となる。プログラムは、SDGsを題材とした海洋ゴミやフードロス为主题とした紙芝居講義、古着バッグやペットボトル工作などの体験型ワークと構成されており、子どもたちが楽しみながらリユースや資源循環の重要性を体験できる内容となっている。2024年度は14校約500名、2025年度は15校約310名が参加し、子どもの学びを通じて家庭や地域に広がっている。企画した学生たちのコミュニケーション力や教育力の向上にもつながり、持続可能な社会づくりに貢献できるWin-Winの好循環を示している、サステナブルキャンパス賞に相応しい取り組みである。

表彰式:

2025年11月8日(土)に北海道大学札幌キャンパスで開催された、「サステナブルキャンパス推進協議会2025年次大会」において行われた。表彰式の後に、受賞事例の紹介プレゼンが行われ、古賀貫太委員長の発表が、特別賞を受賞した。



※サステナブルキャンパス賞とは、一般社団法人サステナブルキャンパス推進協議会が運営し、サステナブルキャンパス構築に係る取り組み事例を表彰する制度で、持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献することを目的に、2015年度より毎年実施されている。詳細 <http://casnet-japan.org/free/award>

(2) 企業との連携プロジェクトの発表で「Silver-Level Award」受賞

環境 ISO 学生委員会は「第 10 回 ASCN(アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク)年次大会」における学生発表セッションにおいて「Silver-Level Award」を受賞しました。

発表者:鈴木雄翔、斬佳欣、梶浦千尋

タイトル:“Building Sustainable Communities Through Student-Business Collaboration: Initiatives and Lessons from Chiba University”

内容:千葉大学が目指す長期ビジョン「2040 年までに RE100 達成を目指す」や、20 年以上にわたる学生主体の環境マネジメントシステムの歴史をベースに、学生委員会の活動や、京葉銀行をはじめ様々な企業と行っているプロジェクトの事例を紹介。特に企業との連携においては、学生側だけでなく企業側のメリットもあることを伝え、具体的な数値を示しながらその社会的インパクトを裏付けました。また、活動を一過性で終わらせないための工夫についても触れ、最後はアジアの学生たちに向けて、「考えるだけでなく自ら行動して社会を変えよう」というメッセージを発信しました。



※「ASCN: Asian Sustainable Campus Network」は、サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)がアジアにおけるサステイナブルキャンパスの推進を目的に、各国の大学ネットワークである、China Green University Network (CGUN:中国)、Korean Association for Green Campus Initiative(KAGCI:韓国)、Sustainable University Network of Thailand(SUN Thailand:タイ)とともに立ち上げたネットワーク。

(3) 京葉銀行が多様性社会推進に関して「千葉県知事賞」を受賞

京葉銀行は、2月6日、令和7年度千葉県男女共同参画・多様性社会 推進事業所表彰の多様性社会推進部門において「千葉県知事賞」を受賞しました。

以下プレスリリースより抜粋

1. 多様性社会推進に関する取り組み

当行のさまざまな取り組みの中で、優良事例として以下の点が紹介されました。

多様な人材の活躍を促す職場風土	①グループの人権方針に多様性尊重や差別・人権侵害排除を明記するとともに、外部講師や千葉大学環境 ISO 学生委員会と連携したダイバーシティに関する研修を実施するなど、ダイバーシティ推進の理解促進を行っている。 ②外部調査機関による従業員エンゲージメント調査と各部署の管理職へのフィードバックを行い、課題のある部署の管理職においては、管理職によるアクションプランシートに基づく改善策を講じ、人事部が進捗状況を確認して、組織改善に努めている。
多様な人材の能力活用や職域拡大等	③パートタイマーの職域拡大に向けて、複数職務を担う「オールラウンダー」の導入や正社員への登用をしており、2024年度以降69人がオールラウンダーにステップアップ、2025年度9人が正社員へ登用された。
多様性社会の推進に資する先駆的又は積極的な取組	④農福連携についてのセミナー開催や農業者と福祉事業者のマッチング等を通じて、障害のある方々の働きがい向上や賃金アップを図るとともに、地域とのつながりを創出・促進している。

2. 表彰式の様子



日時：2026年2月6日（金）11：00～11：30

場所：千葉県庁本庁舎5階会議室

左より、

千葉県知事 熊谷 俊人

弊行 取締役頭取 藤田 剛

当行は、今後も誰もが安心して働き続けることができる職場環境を目指し、制度内容やサポート体制の充実を図ってまいります。

7. まとめと来年の展望

(1) 総括

<今年度の企画実施結果>

企画	評価	成果
1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援 	国内二度、マレーシア留学プログラム、タイでの国際会議に学生を派遣できた。Chiba Winter Fes 2026 が盛況であった。	◎
2. 「エコアクション 21」取得コンサルティング 	3社のコンサルティングを進めることができ、1社が認証取得した。	◎
3. 学生発案の7つの環境貢献企画		
(1) Let's Study SDGs 	より意義ある活動にするため、コンテンツの抜本的見直しができた。計画以上の9校で実施できた。	◎
(2) こどもエコまつり 	年度内に2回開催できた。集客課題の打ち手として、他施設や団体との協同開催も実現させることができ、そごう千葉店様との連携もできている。	◎
(3) 古着市企画 	実施回数を維持した上で、古着の寄付や、「服を長く使おう」という意識の啓発など新しいことに挑戦することができた。	◎
(4) ダイバーシティ企画 	昨年に引き続き、発達障害に関する研修を学生向けに実施できた。一方で当初の目標としていたリーフレットの作成までは終わらなかった。	○
(5) 紙芝居企画【新企画】 	新企画を一から企画し、製本までは行き着いたが、贈呈式までは実施できなかった。	○
(6) バリアフリー企画【新企画】 	バリアフリーという新しい観点の新企画を立案し、ChibaWinterFes2026では多くの方に体験をしてもらうことができた。	◎
(7) 高齢者向け企画【新企画】 	新しいターゲットである高齢者を対象とした企画を考え、実施案まではまとめたが、実施までは至らなかった。	△

<過年度との比較>

年度	学生発表の機会	実施企画総数	新企画の数	プレスリリース	メディア露出 (新聞,テレビ)	表彰
2017	5カ所 23名	8企画	8企画	10本	19(16, 5)	4件
2018	5カ所 16名	10企画	3企画	11本	13(12, 2)	1件
2019	7カ所 42名	8企画	5企画	12本	8(7, 1)	2件
2020	5カ所 13名	8企画	6企画	5本	3(3, 0)	0件
2021	10カ所 55名	13企画	7企画	13本	21(12,5,4)	1件
2022	4カ所 25名	17企画	6企画	16本	18(16,2)	1件
2023	3カ所 14名	17企画	4企画	15本	7(6,1)	1件
2024	3カ所 14名	7企画	3企画	8本	2(1,1)	1件
2025	4カ所 17名	7企画	3企画	6本	3	3件

<振り返り>

① 継続企画を軌道に乗せ、内容を充実させることができた。

「Let's Study SDGs」、「こどもエコまつり」、「古着市」においては、安定的に実施できるようになったとともに、既存のコンテンツや枠組みを再度見直しを行う中で、様々な改善を行うことができた。「量」だけでは無く、いかに啓発効果を高められるかという視点で企画を練り直す期間があったことは、多くのメンバーにとっても非常に有意義だったと感じている。

② 企画のスタート遅れにより、いくつかの企画で当初の目標を達成できなかった。

今年度は、昨年度に続き約60名という大所帯でスタートしたものの、年度はじめに企画のリーダーが決まっていなかったこともあり、各企画のスタートが遅れてしまった。また、リーダーが決まった後も一年生のリーダーに対しては十分なサポートをすることができず、当初の目標通りには進捗しない企画があった。

③ エコアクション 21 コンサルティングの安定化

コンサルチームの中でも試行錯誤しながら、コンサルの型化を進めることができ、新規企業へのコンサルをスムーズに開始することができた。また、2件目の認証取得企業が誕生した。

④ 広報活動の新しい取り組み

千葉県主催のSDGsセミナーにおいて「優良事例」として招待発表したことは、これまでの本プロジェクトの実績が県にも認められたということである。当日は、約30もの県内企業・団体に直接ecoプロジェクトを広報する貴重な機会となり、今後の活動を広げるきっかけづくりができた。一方で、プレスリリースやメディア露出に力を入れることができなかった。

⑤ 過去2番目に多い、3度の受賞

本プロジェクトに関する3回の受賞は、初年度に次ぐ多さであった。学生委員会の受賞と京葉銀行の受賞の両方があり、本プロジェクトの取り組みが世の中に認められてきたと言える。学生発表により2つの賞を受賞したことは、他大学へのPRにもなった。

<来年度への展望>

継続企画の安定的な運営と継続的発展を行うとともに、今年度実施まで至らなかった企画の完遂や、新企画の立案など、学生メンバーで計画的に実行していきたい。

今年度、千葉県から SDGs の優良事例としてセミナー講師に招待していただいたように、外部のセミナー等での講演の機会を模索し、本プロジェクトの広報機会を拡大させていく。また、プレスリリースやメディア露出についても戦略的に取り組んでいく。

来年度は本プロジェクトの 10 周年であることから、10 周年記念企画を実現させたい。

(2) プロジェクトリーダーより

昨年度、私は「発展期」一年目のプロジェクトリーダーとして関わらせていただきました。今年度は、前代3年生と新しい代の2年生の二人体制でプロジェクトリーダーを担うことで、前年度の活動状況を踏まえたうえでプロジェクトを実施しやすくなるようにしてみました。二年連続で、プロジェクトリーダーとして関わる機会をいただけたことは非常に嬉しく思っております。

今年の良かった点としてまず挙げられるのは二度の表彰の機会を得られたことと、同時にそのような場での発表機会を多くの学生が得られたことだと思います。私が大学一年生の時からこのプロジェクトに深く関わる中で、新たな「Let's Study SDGs 企画」を立ち上げ、その活動が私自身最後の年に表彰の機会をいただけたことは非常に感慨深く思っております。私に限らず、このような発表機会を通して他大学の学生と交流を持ち、刺激を得ることは非常に良い経験となっています。

一方で、今年度はプロジェクトのスタートが遅くなってしまい、各企画のリーダーに一年生が多かったこともあって、進捗が難航するような企画もいくつか見られました。これについては全ての企画の進捗をきちんと把握すべきプロジェクトリーダーとしての責務を全うできなかったという点において、反省をしております。この反省を来年度以降に生かすべく、既に来年度のプロジェクトリーダーには引き継ぎを行い、来年度に向けての準備が進んでいると聞いています。そして、今年度企画のリーダーを務めた学生にはこの経験を活かして、今後の活動に活かして欲しいと思っております。

最後にはなりますが、私自身三年間このプロジェクトに関わる機会をいただき、多くの学びの機会をいただけたことを心より感謝申し上げます。今後とも本プロジェクトが益々充実していくことを祈っております。本当にありがとうございました。

法政経学部 3 年 古賀貫太

千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクトの統括を務める機会を頂きありがとうございました。今年度は、新たに3つもの企画の立ち上げにご賛同いただき、私たちがアイデアを形にするための素晴らしい「挑戦の場」を設けていただきました。しかし、私自身統括でありながらも、この1年間ほとんど当プロジェクトの企画運営に貢献できませんでした。そのような状況下でも、プロジェクトメンバーたちは自主的にアイデアを出し合い、自らの力で順調に企画を推進し、見事に形にしてくれました。来年度から新たな統括のもと始まるプロジェクトがより社会に貢献できるものになるよう、サポートに徹したいと思っております。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

法政経学部 2 年 佐藤隼斗